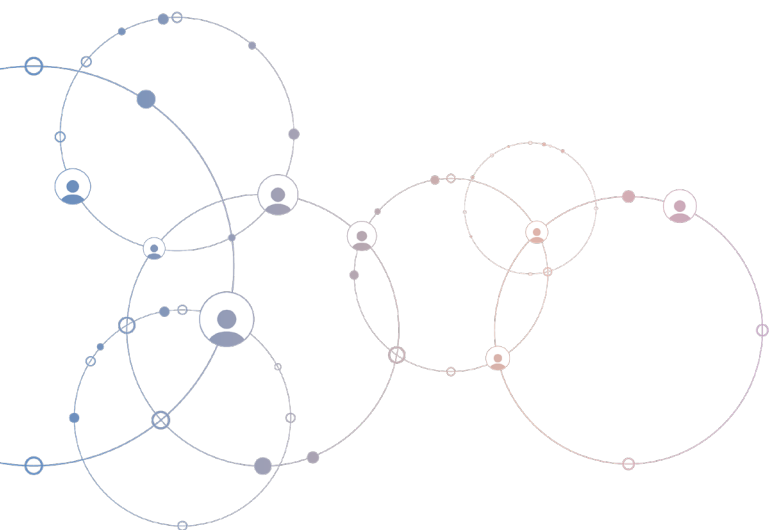


DX戦略

地域に集中し、地域を優先し、地域とともに歩む。



2026年8月28日 取締役会
青梅ガス株式会社
代表取締役社長 中村 洋介

DX取組宣言

青梅ガス株式会社は、1960年の創業以来、地域のライフラインを担う都市ガス事業者として、安定供給を第一に、お客様の「困った」にすぐ応えることを大切にしながら、地域の暮らしを支え続けてきました。

しかし、オール電化や再生可能エネルギーの普及、都市ガス小売自由化により競争は激化し、人口減少や気温上昇、省エネルギーの進展によりエネルギー販売量は減少しています。このような環境変化の中、従来の都市ガス販売を中心とした事業だけでは、地域から期待される役割を果たし続けることは難しくなっています。

私たちは、DXを「デジタル技術を活用して事業そのものの価値を高める経営改革」と位置付けます。お客様との日常的な対話や接点から得られる情報を組織全体で共有し、一人ひとりの暮らしや地域課題に応じた最適な提案を行うことで、地球環境、地域社会、暮らしの三つの領域に新たな価値を提供するビジネスモデルへ転換します。

青梅ガス株式会社

代表取締役社長 中村 洋介

■ 経営理念

地域に集中し、地域を優先し、地域とともに歩む。

私たちは、事業活動の軸を地域に置き、地域のお客様、地域社会、地域経済の発展を最優先に考えます。エネルギーインフラを担う企業として、地域の課題やニーズに真摯に向き合い、人と人、人と地域とのつながりを大切にしながら、「個と個をつなげ、輪と成す。」ことで、ともに支え合う地域社会を育んでいきます。地域に根ざした企業だからこそできる価値を提供し続け、地域とともに歩み、持続可能で豊かな地域社会の実現に貢献します。

■ 経営ビジョン

地域のエネルギーインフラを担ってきた経験と知見を活かし、安心で快適な暮らしと豊かな地域環境を次世代へつなぎ、人・地域・地球が調和する持続可能な地域社会を支え続けます。

私たちは、永年にわたり地域のエネルギーインフラを支えてきた経験と知見を礎に、お客様の安心で快適な暮らしを守り続けます。同時に、地球温暖化をはじめとする環境問題に真摯に向き合い、豊かな自然環境、安心して暮らせる地域の営み、健全な地球環境を次世代へ引き継ぐ責任を果たします。暮らしの豊かさ、地域社会の発展、地球環境の保全は相反するものではなく、調和・両立すべきであると考えています。私たちは、その実現に向けて挑戦を続け、お客様と地域から信頼される企業として持続可能な地域社会を支えてまいります。

私たち青梅ガス株式会社は経営ビジョン及びビジネスモデルを実現するために、地球環境への貢献、地域社会への貢献、暮らしへの貢献を念頭に、以下のDX戦略を立案し全社を挙げて取り組んでまいります。

■ 地球環境への貢献：今を守り、未来を守る。

戦略① エネルギーソリューションの提案

天然ガスの安定供給性、経済性を活かし、お客様の脱炭素化と経済性の両立と事業継続、競争力向上につながる最適なエネルギーソリューションを提案する。

▼ 具体的な取組

法人顧客プロフィールを整備し、提案書に ①エネルギー利用状況、②脱炭素効果、③BCP・レジリエンス、④経済性 の4項目を標準的に記載し、データ分析やAIを活用することで、お客様ごとの課題を踏まえた提案を実施する。



■ 地域社会への貢献：地域を守り、人をつなぐ。

戦略② 保安の高度化と業務の効率化・自動化

地域のライフラインを守るため、日本ガス協会が推進する「スマート保安」を活用して保安の高度化を図るとともに、デジタル技術により業務の効率化・自動化を進め、安全・安心な都市ガス事業をより少ない人員でも持続できる体制を実現する。

▼ 具体的な取組

- 1) スマートグラス・ウェアラブルカメラ等を活用した保安業務や施工管理の遠隔支援を行う。
- 2) WebサイトへのAIチャットボット導入により、疑問をお持ちのお客様が24時間いつでも即座に自己解決できる利便性の高い環境を整備する。あわせて、電話・メール対応の品質向上のために受付業務の改善を図る。

戦略③ 活力ある地域社会づくり

人を「孤」にしないために、人と人、人と地域をつなぎ、ともに支え合う地域の輪を広げ、持続可能で活力ある地域社会づくりに貢献する。

▼ 具体的な取組

「お客様カルテ」の充実を図り、一人ひとりのお客様に寄り添った、よりきめ細かなサービスと伴走型支援を提供する。単なるガス設備の保守・点検にとどまらず、お客様とのつながりを育み、「安心」と「信頼」を届け、人と人、人と地域がつながる活力ある地域社会づくりに努める。

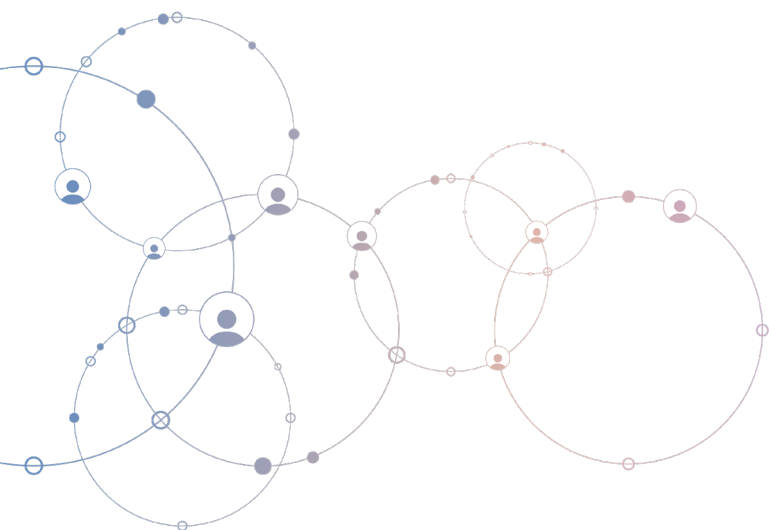
■ 暮らしへの貢献：暮らしを支え、だんらんを育む。

戦略④ 一人ひとりに寄り添った価値提供

お客様との日常的な対話や接点を通じて得られた情報を組織で共有し、一人ひとりの暮らしに寄り添った、ライフステージに応じた継続的な価値を提供する。

▼ 具体的な取組

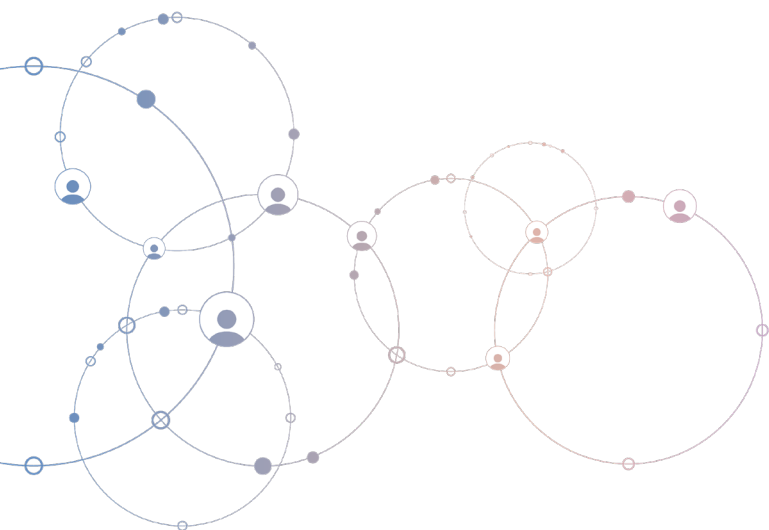
「お客様カルテ」を整備し、お客様のライフステージに合わせた提案を行い、また、住宅設備を保守管理し、壊れる前に確実な交換を行なって、可用性を維持できるようにする。



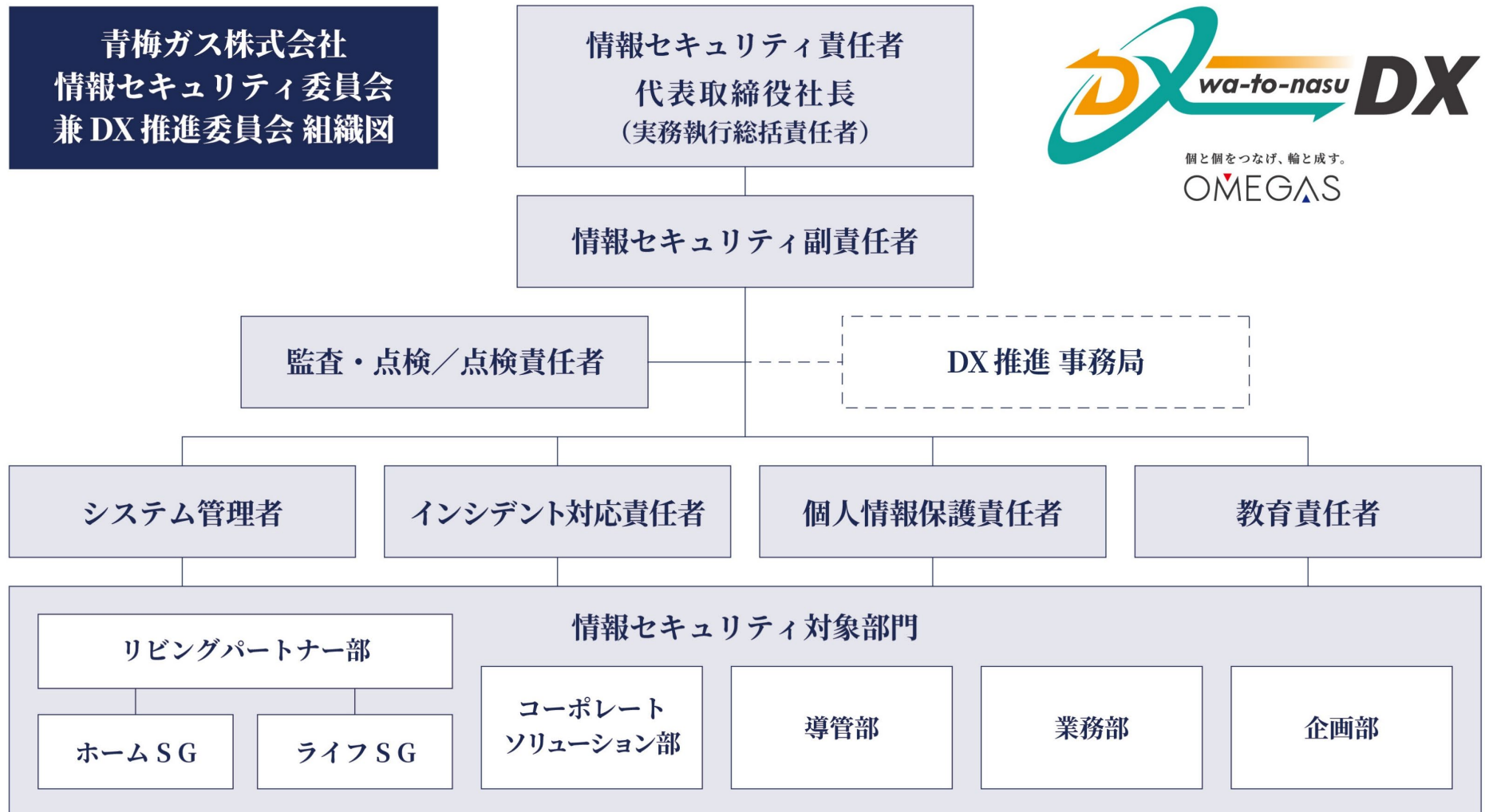
DX推進体制

青梅ガス株式会社は、代表取締役社長（実務執行総括責任者）を中心として、情報セキュリティ委員会兼DX推進委員会を組織し、情報セキュリティの向上とDX戦略の進捗を定期的に管理・評価しながら、全社一丸となってDXを推進してまいります。

また、必要なデジタル人材の育成については、教育責任者が「教育計画」を策定し、その計画に基づき全社的な教育・研修を継続的に実施します。さらに、DXの定着による業務改革と企業価値の向上を目指し、現場主導で課題解決に取り組む体制を構築するとともに、2028年末までにITパスポート試験合格者15名、情報セキュリティマネジメント試験合格者5名の育成を目標とします。



DX推進体制（組織図）



デジタル環境整備

青梅ガス株式会社は、DX推進のために毎年売上の2%を投資します。

我々は、システム導入が目的ではなく、あくまでもワークスタイルの変革が目的で、そのためにシステムを導入し活用してきました。同様に、これからもビジネスモデルの変革を目的とし、既存システムを見直し、新規システムの導入やネットワークを構築して会社全体のDXを推進していきます。

区分	内容
既存	- ガス需要家管理・ガス料金計算・各種関連情報集約 ⇒ ガス調定システム(GIOS) - 会議にかかる人と時間の節約、意思決定の質の向上 ⇒ Google Workspace、Apple iPad - 業務の場所と時間の制約からの解放とリードタイムの短縮 ⇒ Google Workspace、Apple iPad ⇒ 勤怠管理と給与計算のクラウド化 (ジョブカン・King Of Time) ⇒ 回覧(情報共有)と稟議のクラウド化(ジョブカン) ⇒ 人事評価システムのクラウド化(あしたのクラウド) ⇒ Webコンテンツ管理システム WordPress) - 導管網管理のデジタル化による迅速な障害対応の実現 ⇒ 導管図のデジタル化(デジタル導管網図 Sitore) - 災害時の円滑なコミュニケーションと意思決定の支援 ⇒ Google Workspace、Apple iPad ⇒ 災害・緊急招集システム ⇒ 災害時情報共有システム - ルーチンワークの自動化 ⇒ Google apps script を利用したデータ連携
新規	- リフォーム顧客管理 ⇒ 顧客管理システム(プロワン) - LPWAスマートメーター運用 ⇒ ガスメーター検針自動化(Aichiクラウド) - カスタマーサポート拡充&省人化 ⇒ ウェブサイトへのAIチャットボット実装 - 施工管理／保安業務遠隔支援 ⇒ ウェアラブル遠隔支援システム

KPI（目標値）

青梅ガス株式会社は、DX戦略の達成状況を測る指標として下記を定めます。実行計画を立案したうえで、取り組みを行い、各部署ごとに目標値の達成状況を月1度評価を行いながら目標達成できるようPDCAサイクルを回していきます。

DX戦略	取組内容	期限	目標値
戦略① エネルギーソリューションの提案 天然ガスの安定供給性、経済性を活かし、お客様の脱炭素化と経済性の両立と事業継続、競争力向上につながる最適なエネルギーソリューションを提案する。	法人顧客プロフィールを整備し、提案書に①エネルギー利用状況、②脱炭素効果、③BCP・レジリエンス、④経済性の4項目を標準的に記載し、データ分析やAIを活用することで、お客様ごとの課題を踏まえた提案を実施する。	2028年末	全ての法人顧客プロフィールを整備
		2030年末	該当顧客100%に提案実施
戦略② 保安の高度化と業務の効率化・自動化 地域のライフラインを守るため、日本ガス協会が推進する「スマート保安」を活用して保安の高度化を図るとともに、デジタル技術により業務の効率化・自動化を進め、安全・安心な都市ガス事業をより少ない人員でも持続できる体制を実現する。	1) スマートグラス・ウェアラブルカメラ等を活用した保安業務や施工管理の遠隔支援を行う。	2027年末	トライアル／問題点抽出 採用システム決定
		2028年末	運用開始／効果検証
	2) WebサイトへのAIチャットボット導入により、疑問をお持ちのお客様が24時間いつでも即座に自己解決できる利便性の高い環境を整備する。あわせて、電話・メール対応の品質向上のために受付業務の改善を図る。	2030年末	AIチャットボット導入
戦略③ 活力ある地域社会づくり 人を「孤」にしないために、人と人、人と地域をつなぎ、ともに支え合う地域の輪を広げ、持続可能で活力ある地域社会づくりに貢献する。	「お客様カルテ」の充実を図り、一人ひとりのお客様に寄り添った、よりきめ細かなサービスと伴走型支援を提供する。単なるガス設備の保守・点検にとどまらず、お客様とのつながりを育み、「安心」と「信頼」を届け、人と人、人と地域がつながる活力ある地域社会づくりに努める。	2028年末	伴走型サービス対象顧客の判定基準を策定し「お客様カルテ」の運用開始
戦略④ 一人ひとりに寄り添った価値提供 お客様との日常的な対話や接点を通じて得られた情報を組織で共有し、一人ひとりの暮らしに寄り添った、ライフステージに応じた継続的な価値を提供する。	「お客様カルテ」を整備し、お客様のライフステージに合わせた提案を行い、また、住宅設備を保守管理し、壊れる前に確実な交換を行なって、可用性を維持できるようにする。	2028年末	「お客様カルテ」を基に保守部品供給終了器具をご利用中のお客様に対する更新提案を開始

社長（実務執行総括責任者）メッセージ

私たち青梅ガスは、デジタル技術を活用して新たな価値を創出し、今の快適な暮らしと未来の地球環境を守り、持続可能な地域社会を支え続けるためにDX戦略を構築し公表しました。

DXを推進することにより天然ガスの安定供給性と経済性を生かし、お客様の脱炭素化と経済性の両立に資するエネルギーソリューションを提案するとともに、スマート保安や業務の効率化・自動化によって、安全・安心な都市ガス事業を持続できる体制を築きます。また、人と人、人と地域をつなぎ、支え合う地域の輪を広げるとともに、お客様との日常的な接点から得られた情報を組織で共有し、一人ひとりのライフステージに寄り添った継続的な価値を提供します。

一方で、私がDX認定に大きな意義を感じているのは、デジタルガバナンス・コードを、経営を客観化・可視化し継続的に検証・改善するためのガバナンスの枠組みとして活用できることにあります。

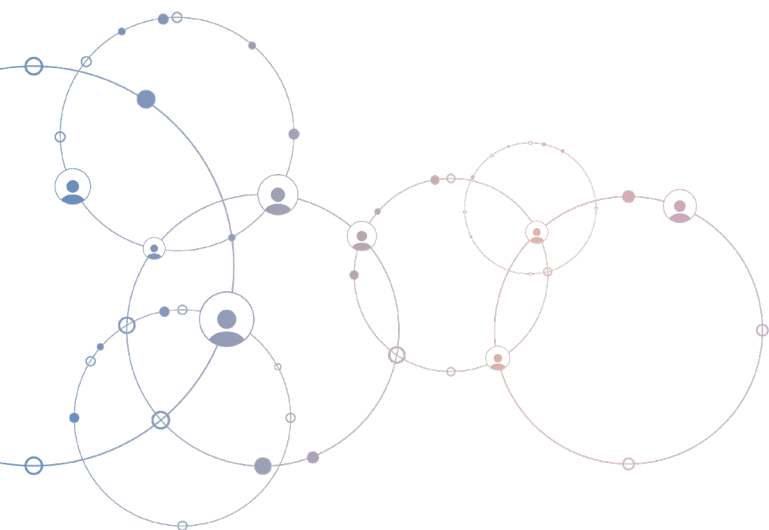
それにより、経営の透明性や再現性、客観性が高まり、経営理念を基にした経営ビジョンや戦略を組織全体で共有しながら、環境変化に応じて継続的に磨き上げていく企業文化を育むことができます。さらに、経営者が交代しても理念や戦略が着実に受け継がれ、持続的に成長できる企業づくりの基盤になると考えています。

DXは一過性の取組ではなく、変革を積み重ねていく不断の取組みです。私たちは、これからもステークホルダーの皆様との対話を大切にし、ご意見を真摯に受け止めながら、本戦略を継続的に検証・改善し、着実に実践してまいります。そして、地域から信頼され、次の世代へと受け継がれる企業であり続けることを目指し、その歩みを着実に進めてまいります。

青梅ガス株式会社
代表取締役社長 中村 洋介

情報セキュリティ・ガバナンス

- 「SECURITY ACTION2つ星宣言」を実施しウェブサイトで公表 [自己宣言ID:40220322843]
- 「情報セキュリティ基本方針」を策定しウェブサイトで公表
- 「5分でできる！情報セキュリティ自社診断」の実施
- 「DX推進指標 自己診断フォーマット」(2026年8月提出済み)



青梅ガスグループのDXと情報セキュリティ
https://www.omegas.co.jp/about/wa-to-nasu_dx